

分子細胞機能学研究室

Molecular Cell Biology

教授	今中 常雄	Tsuneo Imanaka
准教授	岡村 昭治	Shoji Okamura
助教	守田 雅志	Masashi Morita
助教	柏山 恭範	Yoshinori Kashiwayama

◆ 著 書

- 1) Okamura S., Kudo K., and Imanaka T.: Qualitative and quantitative analysis of β -tubulin Cva (C-terminal variable acidic amino acid region) by MALDI-TOF Mass-spectrometry. In *The Plant Cytoskeleton: a Key Tool for Agro-Biotechnology*, Proceedings of the NATO Advanced Research Workshop on The Plant Cytoskeleton: Genomic and Bioinformatic Tools for Biotechnology and Agriculture, by Blume Y. B., Baird W. V., Yemets A. I., and Breviaro D. (Eds.), 283-301, Springer, Dordrecht, The Netherlands, 2008.

◆ 原 著

- 1) Sato Y., Shibata H., Nakano H., Matsuzono Y., Kashiwayama Y., Kobayashi Y., Fujiki Y., Imanaka T., and Kato H.: Characterization of the interaction between recombinant human peroxin Pex3p and Pex19p: Identification of TRP-104 in Pex3p as a critical residue for the interaction. *J. Biol. Chem.* 283, 6136-6144, 2008.
- 2) Morita M., Kanai M., Mizuno S., Iwashima M., Hayashi T., Shimozawa N., Suzuki Y., and Imanaka T.: Baicalein 5, 6, 7-trimethyl ether activates peroxisomal but not mitochondrial fatty acid β -oxidation. *J. Inherit. Metab. Dis.* 31, 442-449, 2008.

◆ 総 説

- 1) 守田雅志, 今中常雄: 極長鎖脂肪酸代謝と疾患. *生化学*, 80, 434-439, 2008.
- 2) Takano T., Itabe H., Mori M., Kimura J., Nakagami K., Sato R., Hashida R., Yagyu Y., Mineo C., Amanuma K., Imanaka T., Higashi Y., Fujimoto Y., and Fujita E.: Molecular pathology in atherosclerosis; The mechanism how cholesterol ester accumulates in atheromatous aorta. *Yakugaku Zasshi* 128, 1383-1401, 2008.

◆ 学会報告

- 1) Hayashi K., Obi N., Kashiwayama K., Terasawa K., Shimada Y. and Ochiai H.: Evaluation of inhibitory effect of cinnamaldehyde, derived from *Cinnamomi cortex*, on the growth of influenza virus *in vitro* and *in vivo*. 2008 International conference on Traditional Nursing, 2008, 5, 2, Toyama.
- 2) 守田雅志, 岩島誠, 林利光, 下澤伸行, 鈴木康之, 今中常雄: 植物フラボノイド Baicalein5, 6, 7-trimethyl ether はペルオキシソームの脂肪酸 β 酸化を活性化する. 日本薬学会第128年会, 2008, 3, 27, 横浜.
- 3) 山下純, 田中健, 熊澤司紗, 杉浦隆之, 今中常雄: アシル CoA による細胞質ホスホリパーゼ A2 γ の制御. 日本薬学会第128年会, 2008, 3, 27, 横浜.
- 4) 木村耕士*, 大久保純, 和田郁夫, 今中常雄: 変異型アンチトロンビンにより形成される Russell body の構造と細胞内動態 - Live Cell Imaging による解析 -. 日本薬学会第128年会, 2008, 3, 27, 横浜.
- 5) 遠藤洋平*, 友廣岳則, 柏山恭範, 今中常雄, 畑中保丸: 脂質型光アフィニティープローブを用いた脂質輸送系解析. 日本薬学会第128年会, 2008, 3, 27, 横浜.
- 6) 柏山恭範, 関みどり, 安井暁奈, 守田雅志, 今中常雄: ABCD 群タンパク質の細胞内局在は N 末端アミノ酸配列が制御している. 日本生化学会北陸支部第26回大会, 2008, 5, 31, 金沢.
- 7) 柏山恭範, 関みどり, 安井暁奈, 守田雅志, 今中常雄: P70R(ABCD4)の細胞内局在と局在化機構の解析から明らかになる ABC サブファミリーD 群タンパク質の細胞内局在制御機構. 第3回トランスポーター研究会年会, 2008, 6, 7, 京都.
- 8) 佐藤康彦, 柴田洋之, 中野博明, 松園裕嗣, 柏山恭範, 小林裕次, 藤木幸夫, 今中常雄, 加藤博章: ペルオキシソーム膜タンパク質輸送に関与する Pex3p と Pex19p の相互作用様式. 第8回蛋白質科学会年会, 2008, 6, 12, 東京.
- 9) 軽部篤*, 木村耕士, 大久保純, 今中常雄: 変異型アンチトロンビンの分泌異常機構と Russell body の形成. 第9回

Pharmaco-Hematology シンポジウム, 2008, 6, 20, 東京.

- 10) 柏山恭範, 関みどり, 安井暁奈, 守田雅志, 今中常雄: ABC タンパク質 D 群の細胞内局在は N 末端アミノ酸配列に依存する. 第 30 回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム, 2008, 8, 7, 札幌.
- 11) 大久保純*, 木村耕士, 和田郁夫, 今中常雄: 変異型アンチトロンビンにより形成される Russell body の細胞内動態と細胞応答. 日本薬学会北陸支部第 118 回例会, 2008, 11, 9, 金沢.
- 12) 平裕幸*, 柏山恭範, 守田雅志, 今中常雄: ペルオキシソーム膜形成因子 Pex16p の細胞内動態とペルオキシソーム形成における役割. 日本薬学会北陸支部第 118 回例会, 2008, 11, 9, 金沢.
- 13) 小松史明*, 守田雅志, 田村文, 渡辺志朗, 今中常雄: ペルオキシソーム膜 ABC タンパク質 ABCD1 欠損における極長鎖脂肪酸代謝. 日本薬学会北陸支部第 118 回例会, 2008, 11, 9, 金沢.
- 14) 小松史明*, 守田雅志, 田村文, 渡辺志朗, 下澤伸行, 今中常雄: ペルオキシソーム膜 ABC タンパク質 ABCD1 機能欠損における極長鎖脂肪酸蓄積の分子機構. 第 31 回日本分子生物学会・第 81 回日本生化学会 合同大会. 2008, 12, 9, 神戸.
- 15) 永井徹, 池田和貴, 守田雅志, 佐藤典子, 原田史子, 唐沢健, 下澤伸行, 田口良, 今中常雄, 井上圭三, 横山和明: ペルオキシソーム病の線維芽細胞に検出される極長鎖脂肪酸含有脂質の分子構造. 第 31 回日本分子生物学会・第 81 回日本生化学会 合同大会. 2008, 12, 9, 神戸.
- 16) 柏山恭範, 成田琴美, 友廣岳則, 鈴木美幸, 畑中保丸, 今中常雄: 光反応性脂肪酸誘導体を用いたフォトアフィニティーラベルによるペルオキシソーム脂肪酸代謝酵素及びその基質認識部位の同定. 第 31 回日本分子生物学会・第 81 回日本生化学会 合同大会. 2008, 12, 12, 神戸.
- 17) 守田雅志, 今中常雄: U87 グリオブラストーマ細胞におけるペルオキシソーム膜 ABC タンパク質 ABCD1 機能欠損によるコレステロール代謝異常. 第 31 回日本分子生物学会・第 81 回日本生化学会 合同大会. 2008, 12, 12, 神戸.
- 18) 軽部篤*, 木村耕士, 大久保純, 今中常雄: アンチトロンビン (AT) C 末端側ジスルフィド結合の異常は AT の凝集体形成の原因となる. 第 31 回日本分子生物学会・第 81 回日本生化学会 合同大会, 2008, 12, 12, 神戸.
- 19) 大久保純*, 木村耕士, 軽部篤, 和田郁夫, 今中常雄: 変異型アンチトロンビンにより形成される Russell body の細胞内動態. 第 31 回日本分子生物学会年会・第 81 回日本生化学会大会 合同大会, 2008, 12, 12, 神戸.

◆ その他

- 1) 今中常雄, 守田雅志: グリア細胞の ALDP 機能欠損による脂質代謝異常ならびにバイカレン誘導体の極長鎖脂肪酸 β 酸化活性化機構の解析. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業: 運動失調機序に関する調査研究班 2007 年度班会議, 2008, 1, 9, 東京.
- 2) 今中常雄, 柏山恭範, 守田雅志: ペルオキシソーム膜形成の分子病態解析. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業: ライソゾーム病 (ファブリ病含む) に関する調査研究班 2008 年度班会議, 2008, 11, 27, 東京.
- 3) 鈴木康之, 今中常雄, 下澤伸行: ペルオキシソーム病診断パンフレット. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業: ライソゾーム病 (ファブリ病含む) に関する調査研究班, 2008, 3.